

15) 外来糖尿病栄養指導の現状について

牧野 令子 (がんセンター)
他栄養課一同 (栄養課)

外来糖尿病の増加に伴い、外来指導に向けて、積極的
に取り組んできた。1. 栄養指導は予約なしで受ける。2.
指導時間は毎日午前9時～午後2時までで延長。3. 3
回継続指導を1サイクルとするカリキュラムと栄養指示
箋を検討した。指導回数による効果を調べると2回で指
導を止めているケースでは、検査結果の波が大きく、患
者も栄養士も不安なまま中断していることが判り、今後
の指導の進め方の課題にしたい。指導3回以上の FBS 140
mg/dl 以上のものでは指導前 FBS 208 mg/dl が1回
目指導後 147 mg/dl に、2回目には 150 mg/dl に改
善した。計画的に3回シリーズの継続指導をやること
により、栄養士の方から積極的に声をかけ、患者の抱えて
いるチェック項目について具体的に話し合えるようになっ
た。患者の背景を知り、食生活の見直しと運動のリズム
を取り入れた健康管理の方法を患者と共に探りたいと思
う。

16) 糖尿病チーム医療の展開とその効果

番場勢津子 (県立加茂病院)
6病棟
D M 治療運営
委員会
二宮 裕 (県立加茂病院内科)
他 (糖尿運営委員会)

糖尿病は『患者自身が主治医である』と言われる程、
自己管理の重要な疾病であるため、患者にはインフォ
ームドコンセントが重要である。当院ではH5年6月より
患者を中心としたチーム医療を、従来の DM 教室及び
ビデオ学習の他に患者参加のチームカンファレンスと一
万歩ウォーキングを取り入れ実践して来た。その結果、
『自分の DM の状態がきちんとわかった、コントロール
するのは自分しかない』等の声が聞かれ、患者が主
体的に DM としっかり付き合っていくと言う積極的
な姿勢が見られるようになった。又ウォーキング前後の
血糖値の変化を目の当たりにし、患者は喜びと勇気を持
ちウォーキングが運動療法の1つとして大切であること、
そして持続させる事の重要性を実感出来るようになった。

II. 特別講演

『糖尿病の外来診療と患者教育』

東京都済生会中央病院副院長

松岡 健平 先生

第238回新潟外科集談会

日 時 1994年5月7日(土)

午後1時05分～5時30分

会 場 新潟大学医学部 有壬記念館

2階 大会議室

一般演題

1) 卵巣転移で発見された早期胃癌の1例

阿部 要一・増山 喜一
柚木 透 (木戸病院 外科)
源川 雄介 (同 産婦人科)

症例は40歳女性。月経の延長を主訴とし、産婦人科に
て左卵巣腫瘍を指摘され、嚢胞腺癌が疑われ、平成4年
12月2日に手術された。印環細胞癌からなる転移性卵巣
腫瘍(いわゆる Krukenberg 腫瘍)と診断された。術
後の上部消化管内視鏡検査にて、胃体上部大弯に発赤陥
凹を認め、生検にて印環細胞癌の診断を得た。平成5年
1月12日に手術し、肝転移、腹膜播種はなく、腹腔洗浄
細胞診も陰性であった。脾合併胃全摘術を行い、病理組
織学的検索の結果、病巣は印環細胞癌が主体の 30×27 mm
の IIc で、深達度は m, lyo, vo, リンパ節は No 1,
3, 11, 16 int b₁, 16 lat a₂ と広範に転移をみとめた。
化学療法として CA'P を施行し、術後1年を経過した
現在、再発の徴候なく健在である。

2) 右母指から小腸転移を来したと考えられる
悪性黒色腫の1例

下田 聡・小山 真
北条 俊也・坂下 凜
武田 信夫 (県立新発田病院)
外科

症例：75才、男性。

既往歴：平成2年1月29日、前立腺癌にて除手術施行、
その後ホルモン療法を継続。

現病歴：平成3年5月、右母指を戸に挟みその創傷治